

## 折々の記 No223 : 早川氏主宰勉強会 (# 1) 説明資料

(H26/4/26 記)

本日 (4 月 26 日) 早川忠孝氏の主宰する安全保障等に関する勉強会に招かれ、2 時間弱に亘って説明させていただく機会を得た。先生から勉強会を立ち上げるので、お願い出来ないかとのお話が合った時には、その任にあらずとの気持ちもあったが、広く安全保障や防衛に関して知って頂くことが重要であり、それは小生の義務でもあらうと喜んでお引き受けした次第である。

このような勉強会を主宰して広く国民を啓蒙しようとの先生の意欲的な試みに感服し、敬意を表したい。

以下本日の説明資料である。

JPSN 理事 山下輝男

### ○ 自己紹介&テーマ：最近の安保・防衛を巡る話題

(以下の詳細は、JBpress、JPSN 掲載の小生の愚拙論参照を)

#### I NSS、防衛大綱等、NSC

- 1 25 大綱策定の経緯等(民主党政権の迷走と 22 大綱の特色、自民党の政権復帰)
- 2 25 大綱等の特色 (体系化、脅威認識、NSC、積極平和主義、統合機動防衛力 etc)
- 3 安保戦略の概要(向う 10 年、課題：中国&NK 脅威、6 項目の戦略的アプローチ等)
- 4 防衛計画の大綱概要 (体制整備上の重視、防衛力発揮基盤、大綱別表等)
- 5 中期防 (重視対処事態：島嶼, MD 等、費用増額、新規装備等)
- 6 日本版 NSC (永年懸案事項の具体化、NSS、4 大臣会合、安保局)
- 7 期待等：責任ある理念の完遂、政治のリーダーシップ、速やかなる  
具体化・措置、対中抑止網、日米同盟強化、グレーゾーン対処、基盤整備、情報機  
関の要否

\* 中国の軍事費約 13 兆円、日本の 3 倍弱、米国の 1/4、25 年間二桁の伸び率

#### II 集団的自衛権問題

集団と個別は不即不離、そもそも論、情勢変化論、

フル容認論と限定容認論(手枷・足枷?)、解釈変更の可否、

抑制的規定=所謂シビリアン・コントロールへの不信感?

日本の論議は精緻過ぎる?

#### III クリミア併合と日本の危機

- (1) クリミア併合をどう見るか、欧米の対応は、定見なき譲歩?

宥和政策の付け

米国の日本防衛に懸念(国務・国防両省の温度差、経済的インセンティブ等(米中貿易、米国債保有 1.3 兆ドル 1/4、人的往来 400 万人) 憶病な米国?)

日本は(自身の努力、日米離反防止、同盟、日米同盟の証)

オバマ夫人は何故同伴来日しなかったのか？

(2) 日米首脳会談について(4/24)

大統領の尖閣防衛明言を歓迎(大統領の発言は重い！)

今後の対応(自助&日米同盟の更なる緊密化及び離反对策)

旗幟明確で、同盟国や友好国の不安感払拭

IV グレーゾーン対応(シームレスな対処)

何が起きても可笑しくない時代、事態生起の都度法律策定対処、想定外への対応は、ネガリスト方式(国際法禁止以外は可)で、自衛隊を軍事組織として

V 尖閣諸島防衛問題

島嶼防衛の原則：警戒・監視、未然防止・早期排除、島嶼守備、戦力集中、奪回、抗堪力、統合作戦、戦略機動・集中)、様々な事態を念頭に対応

VI 原発テロ対応

福島原発事故で露呈した脆弱性、テロ対策レベルの国際評価先進国中最下位、武力攻撃事態等・緊急処理事態等考慮欠如、警備力の実態と自衛隊の活用